

四門会

第21号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言	肥塚 泉
医局長就任のあいさつ	中村 学
副部長就任のあいさつ	宮本康裕
新入医局員あいさつ	藤田（杉崎）聡子
	明石愛美
	井戸光次朗
	阿久津征利
大学院通信	
医局報告	医局構成
	外来担当表
	関連病院連絡表
専門外来紹介	
頭頸部腫瘍	赤澤吉弘
喉頭・音声・嚥下	春日井 滋
副鼻腔・アレルギー	斉藤善光
中耳・聴覚	藤田聡子
めまい	中村 学
関連病院だより	
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院耳鼻咽喉科	岡田智幸
川崎市立北部多摩病院	渡辺昭司
横浜総合病院	向出光博
独立行政法人国立病院機構横浜医療センター	佐々木祐幸
OB 通信	
ご無沙汰しております	大高詳一郎
一千年の都、京都より（そうだ、京都行こう）	赤城光代
From OKINAWA	諸見里和子
第 17 回四門会総会を開催して	岩武博也
第 14 回 四門会ゴルフコンペ	信清重典
退職のあいさつ	堤 康一朗
	俵道 淳
	齋藤 晋
平成 23 年度同門会理事会議事録	
会則	
編集後記	宮本康裕

巻頭言 「新人たちそしてOBの活躍」

肥塚 泉



今年も早いもので、巻頭言を書く季節となった。今年度は井戸光次郎君、明石愛美君、藤田聡子君の3人が入局してくれ、これまで「高齢化」が確実に進んでいた医局の平均年齢が一気に低下するという、うれしい出来事で今年度は始まった。井戸光次郎君、明石愛美君は本院で、初期研修・後記研修の2年間を終えての入局である。

藤田聡子君は他大学で耳鼻咽喉科医として数年間働いた後の入局である。彼らの入局で、医局のムードが一変した。昨年度に入局後、大学院に入学した阿久津征利君を含めて、4人の新人たちが病棟や外来できびきびと働く姿を見ていると、医局員の誰もが、彼らを立派な耳鼻咽喉科医に育て上げようという機運が高まり、彼ら一人一人を熱心に指導する光景が随所で見られるようになった。ほんの数年前までの医局では当たり前状態に徐々に戻り、若い先生たちがいると、こんなにも医局は活気づくのだということを再確認する年度となった。本年度のように、コンスタントに入局者がいてくれれば良いのになあと祈る日々が続く今日この頃である。さて、この巻頭言を書いている最中に、私どもの医局で助教授としてご活躍の後、新潟大学医学部耳鼻咽喉科教室の教授になられた高橋 姿先生が、新潟大学の学長に来年2月から4年間就任されるという朗報が届いた。私が聖マリアンナ医大に帰ってきたのは平成7年である。高橋 姿先生も同時期、助教授として本学におられ、同じ釜の飯を食べさせていただいた。高橋 姿先生には公私ともども本当にお世話になった。高橋 姿先生が今度は新潟大学学長としてご活躍される姿が、目に浮かぶようである。

来年度は11月に、パシフィコ横浜で第73回日本めまい平衡医学会総会・学術集会を開催させていただく。同門会の先生方、医局の先生方のさらなるご協力をお願いして、巻頭言を終わらせていただく。

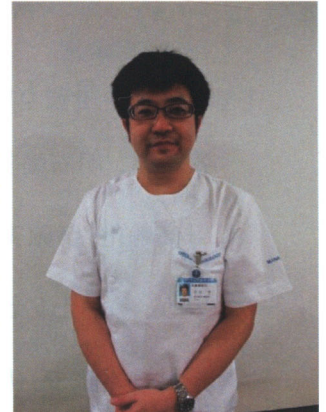
医局長就任のご挨拶

中村 学

平成 25 年度より医局長に就任いたしました中村学と申します。

昭和 48 年 9 月 6 日 東京生まれで、暁星国際高校から聖マリアンナ医科大学に入学、平成 10 年に耳鼻科に入局いたしました。研修医および 4 年間の大学院の後に稲城市立病院、聖ヨゼフ病院、川崎市立多摩病院に勤務し、本年度初めて大学で勤務となりました。

医局長としてだけではなく職員としても大学の勤務は初めてで若干戸惑っております。



また、4 月の医局長就任早々に、急遽外勤先の人事変更が必要になったり、器機の慣れない申請など事務的な業務で戸惑っておりました。前医局長の宮本先生のお支えもあって何とか今日に至ります。関係者各位には様々なご迷惑をおかけしたことと思います。

医局のことを申し上げますと、本年度は 3 名が入局いたしました。

新卒者は井戸光次朗・明石愛美で、7 年目医師の杉崎聡子は他大学より移籍となりました。今後四門会および学会等でお目にかかることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

今後も医局員を増やし、医局および四門会の発展に向けて邁進する所存でございます。

副部長就任のご挨拶

宮本 康裕

月日の流れるのは早いもので、平成8年に耳鼻咽喉科学教室に入局し17年になります。今回、川崎市立多摩病院の創設から部長として永らく職務を務めて頂きました堤康一郎先生の退職に伴い、渡辺昭司先生が多摩病院の部長に就任されることになりました。それに伴い、私が大学病院の副部長の任を拝命する事になった次第です。



今までは、与えられた職務をこなす事で、自分の職務を全うしているような気がしておりましたが、このような重大な任を受けるにあたり、耳鼻咽喉科学教室全体の今後の発展に尽力せよと叱咤激励を受けているということを感じるとともに、その責任の重大さを身にしみて感じております。幸いなことに今年は3名もの新入局員に恵まれ、これからの未来ある若者たちをしっかりと教育し、後輩たちの手本となれるように努力し続けていかなければならないと痛感しております。

来年度には、第73回日本めまい平衡医学会総会・学術集会の開催というビッグイベントも控えており、何としても成功させるため教室員の先頭に立ち引っ張っていける存在でありたいと考えております。

まだ若輩の身でありますので、これからも四門会の先生をはじめ、諸先輩方のご指導ご鞭撻を賜りながら、成長していきたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

新入医局員あいさつ

藤田（杉崎）聡子

はじめまして。

このたび、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科に入局させて頂きました、杉崎聡子と申します。平成 19 年度に奈良県立医科大学を卒業致しました。

卒業後は実家のある神奈川県に戻り、横浜で研修医の二年間を過ごしました。

私は元来右耳の難聴があり、幼少の頃から耳鼻咽喉科にお世話になっておりました。

片耳とはいえ、生活の上で不自由なことも多かったことから、難聴のため不自由な生活を送られている方々のためになりたいと思うようになり、耳鼻咽喉科医になろうと決心致しました。

耳鼻咽喉科医になってからは、難聴以外にも様々な疾患、手術があることを知り、耳鼻咽喉科の面白さを実感致しました。

今年の四月から聖マリアンナ医科大学本院にお世話になっております。病棟業務・外来業務を中心に日々勉強させて頂いております。

専門外来では聴覚外来、めまい外来を担当させて頂いております。

分からないことだらけですが、皆さまの暖かいご指導のもと、日々勉強させて頂いております。

若輩者ではありますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



明石 愛美

この度、入局させて頂きました平成 23 年度聖マリアンナ医科大学卒業の明石愛美です。

出身は東京で、幼稚園から高等部まで青山学院に通っていました。大学ではヨット部に入部し、江の島にて練習をし、弱小クラブながらも東医体にも出場してきました。

聖マリアンナの耳鼻咽喉科に入局した主なきっかけは、

- ① 初期研修ローテーション中に口蓋扁桃摘出術や気管切開術など、手術や手技をたくさん経験する場を与えられた。
- ② 先輩 Dr が外来や手術について親身にフィードバックをして頂いた。
- ③ 父が祖父の跡を継ぎ、さいたま市中央区で耳鼻咽喉科を開業している。

との理由です。

本年 4 月より週 2 回の再診外来と鼻アレルギー外来を担当し、手術に関しては主に口蓋



扁桃摘出術や気管切開術、鼻内手術を経験させて頂いています。

7月には大阪で開催されためまい平衡医学会医師講習会にも参加させて頂き、肥塚教授を含め、たくさんの貴重なお話を聞き、学ぶことができました。

10月からは腫瘍班に移行し、先輩 Dr の下、手術や経過のフォローなど一から学んでいます。

まだまだ未熟者ですが、今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしく願いいたします。

井戸 光次郎

この度入局させて頂きました平成23年度聖マリアンナ医科大学卒業の 井戸光次郎と申します。

生田幼稚園、生田小学校、生田中学校、多摩高等学校、そして大学は聖マリアンナ医科大学と幼少の頃より生田で育ち、常に聖マリアンナ医科大学病院は身近な存在として過ごしてきました。大学ではアイスホッケー部に所属し、日々深夜に行われる練習や試合を通して心身共に研鑽を重ねてまいりました。

家系が医者でないこともあり、右も左もわからない状態で研修医となりましたが、耳鼻咽喉科の外来や手術等の奥深さ、そして諸先生方をはじめ、耳鼻咽喉科に携わるすべての方々の優しさ、厳しさに触れ入局を決めました。



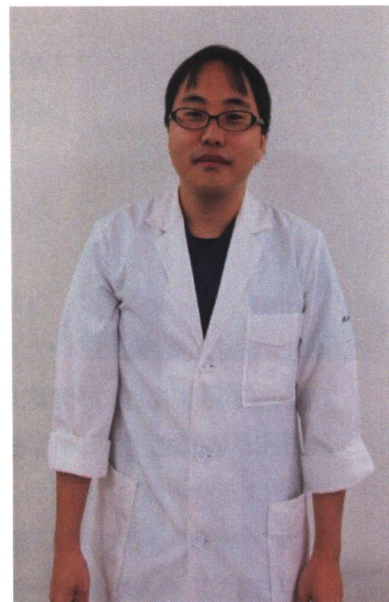
まだまだ未熟者ではございますが、日々真摯に諸先生のご指導を承り、患者の方々への対応の仕方にも心を配り、明るく元気に勤めさせていただく所存ですので、何卒宜しく願い申し上げます。

大学院通信

阿久津征利

大学院2年生の阿久津征利です。肥塚先生の指導のもと、多摩病院から週2回三上先生に来て頂き、回転椅子の実験をしております。

今年になり、回転椅子が新しくなりました。被験者として、主にBSLにくる学生に手伝ってもらい、回転椅子を用いて視覚刺激をあたえる実験、体外式前庭電気刺激が前庭反射に及ぼす影響を実験しております。



以前の大学院生とは違い、今は診療助手という立場が新たに作られ、大学から給料を頂き、日常診療を行いながら実験をする生活しております。そのため、大学病院の先生、多摩病院の先生を始め、医局の先生達には診療や時間の融通に関して、何かとご迷惑をおかけすることが多くあり申し訳なく思っております。論文を載せることがせめてもの恩返しと思い日々研鑽しております。

今後とも御指導・御鞭撻のほどをお願い致します。

医局構成

平成 25 年 10 月 1 日現在

名誉教授	竹山 勇
客員教授	大橋 徹・加藤 功
教 授	肥塚 泉
准 教 授	岡田智幸・渡辺昭司
講 師	漆畑 保・佐々木祐幸・宮本康裕
助 教	中村 学 (医局長) 赤澤吉弘・春日井 滋・川上猛敬・斎藤善光・田中泰彦・深澤雅彦・藤田 (杉崎) 聡子・三上公志・向出光博・矢野裕之・山口央一
任期付助教	明石愛美・井戸光次朗
大学院生	阿久津征利
非常勤講師	芋川英紀・岩武博也・大草方子・越智健太郎・小宅大輔 木下裕継・工藤典代・釧持 睦・佐藤成樹 新谷敏晴 高橋 姿・武田憲昭・中村 正・日比野 浩
登 録 医	及川貴生・北島明美・宮部 聡
研 究 員	犬飼賢也・加藤弓子・新橋 渉・平沼良一・山田善一
診療技術員	北林圭子・久保田恵子・久保田成美
医局秘書	秋山恵子
教授秘書	北山 愛
関連病院	麻生総合病院、稲城市立病院、川崎市立多摩病院、癌研有明病院、共立蒲原総合病院、京浜総合病院、左近山診療所、島田総合病院、国立病院機構横浜医療センター、総合高津中央病院、ソレイユ川崎、秦野赤十字病院、横浜甞生病院、横浜市西部病院、横浜総合病院

(50 音順敬称略)

耳鼻咽喉科外来担当表

2013/11/6現在

午	初診	月 肥塚 春日井	火 齋藤	水 深澤	木 中村	金 宮本	土 赤澤
	再来	杉崎 明石	中村 阿久津	阿久津 明石	宮本 齊藤	深澤 阿久津	春日井 齊藤
前	専門		頭頸部 腫瘍	喉頭 音声	喉頭 音声	めまい	
			赤澤 深澤	赤澤 春日井	岩武(1.3)	肥塚 中村 杉崎	

午 後	専門			鼻・副鼻腔 アレルギー	聴覚	
				宮本 齋藤 宮部(2.4)	宮本 中村 杉崎	
	めまい検査	明石	明石		越智(1.3) 木下 鋤持(2.4.5)	

出張病院および外勤病院

病院名	赴任医師	電話	fax
西部病院	岡田智幸	045-366-1111	045-366-1190
	田中泰彦		
	山口央一		
多摩病院	渡辺昭司	044-933-8111	044-930-5181
	三上公志		
	川上猛敬		
国立病院機構 横浜医療センター	佐々木祐幸	045-851-2621	045-851-3902
横浜総合病院	向出光博	045-902-0001	045-903-3098
麻生総合病院	矢野裕之	044-987-2522	044-988-0878
癌研有明病院	新橋 涉	03-3520-0111	03-3570-0343
高津中央病院	外勤医師	044-822-6121	044-822-7995
稲城市立病院	外勤医師	042-377-0931	042-379-1310
共立蒲原総合病院	外勤医師	0545-81-2211	0545-81-2208
京浜総合病院	外勤医師	044-777-3251	044-777-7319
左近山診療所	外勤医師	045-352-4184	045-352-4183
ソレイユ川崎	外勤医師	044-959-3003	044-954-5581
横浜甦生病院	外勤医師	045-301-0533	045-303-5736

専門外来紹介

《頭頸部腫瘍外来》 火曜日AM

担当医：赤澤吉弘、深澤雅彦



本年度、頭頸部腫瘍チームは激動の年です。これまで長い間、頭頸部腫瘍チームを引っ張り支えてくれた渡辺昭司先生が、急遽 6 月に多摩病院に移動されてしまいました。皆様もご存じと思いますが、渡辺先生は非常に強いリーダーシップと豊富な知識、経験を兼ね備えていて、患者さまの治療方針の決定からその遂行、更に学会活動や若手育成までチームのほぼすべてを担っておられました。渡辺先生が不在の今、これまでどれだけ渡辺先生に甘えていたか、知識、技量、経験、人間性、決断力、指導力など挙げればきりがありません、すべて自分に不足していると痛感しています。大変な状況ではありますが、今は何とか患者さまに最善の医療を提供できるように励み、修練を重ね、渡辺先生が戻られたときにより強力なチームになれるよう頑張っております。

現在、腫瘍外来は赤澤（平成 10 年卒）、深澤（平成 15 年卒）の 2 名で診療しています。深澤はこれまで腫瘍を担当した経験は少ないのですが、とても勤勉でかつ優秀です。性格的に少ししつこいところがあるのですが、患者さまのことを第一に考える信頼できる人間です。渡辺先生が不在で、昨年と比較すると戦力ダウンは明らかですが、癌研有明病院頭頸科の新橋渉君（平成 13 年卒）の力を借りながら何とか頑張っております。至らないところが多く、近隣の先生方にご迷惑をおかけしているかもしれませんが、今後ともよろしくお願い致します。（赤澤吉弘）

《喉頭外来》 水曜AM

担当医：赤澤吉弘、春日井 滋、岩武博也（非常勤）



昨年同様、喉頭外来は赤澤吉弘（平成10年卒）と春日井滋（平成13年卒）の2名で診療を行っております。水曜の午前中の枠をいただき、電子スコープとストロボスコープ、音声機能検査を中心に診療を行っています。

喉頭外来を受診する患者は喉頭癌が最多で、その他に声帯病変や反回神経麻痺などの音声障害、気管疾患、咽喉頭異常感症、嚥下障害の方も多数おられます。

喉頭癌につきましては可能な限り喉頭温存を目指し、進行癌に対しても強力な化学放射線療法の導入（ $\text{CDDP}100\text{mg}/\text{m}^2$ と放射線治療の同時併用）を行っています。また今年から分子標的薬（セツキシマブ）を導入し、腎機能障害のためCDDPが使用できない場合用いています。再発病変に対する救済手術として部分切除術も積極的に検討しております。残念ながら喉頭全摘術を施行する運びとなった場合でも、きめ細かなケアにより患者さまのQOL向上に努めています。

反回神経麻痺に対しては披裂軟骨内転術とGore-Texを使用した甲状軟骨形成術I型の併用を中心に行い、良好な成績が得られております。年間数例の手術症例をもう少し増やしたいと考えています。

嚥下障害に対しては耳鼻咽喉科、神経内科、言語聴覚士、栄養士とともに嚥下チームを結成し、各科から依頼のあった患者に対してVE、VFを施行し、毎週カンファレンスを行っています。当院は急性期病院であるため嚥下機能改善手術を施行する機会は多くはありませんが、適応があれば喉頭挙上術、咽頭収縮筋切断術を行います。

喉頭疾患の患者さまのご依頼は水曜午前の喉頭外来までお願いいたします。（春日井 滋）

《副鼻腔・アレルギー外来》 水曜PM

担当医：宮本康裕、齋藤善光、宮部 聡（非常勤）

副鼻腔アレルギー外来は9月までは宮本康裕、齋藤善光、明石愛美、宮部聡（非常勤）の4名で担当していましたが、10月からは宮本、齋藤、宮部の3名体制で行っております。

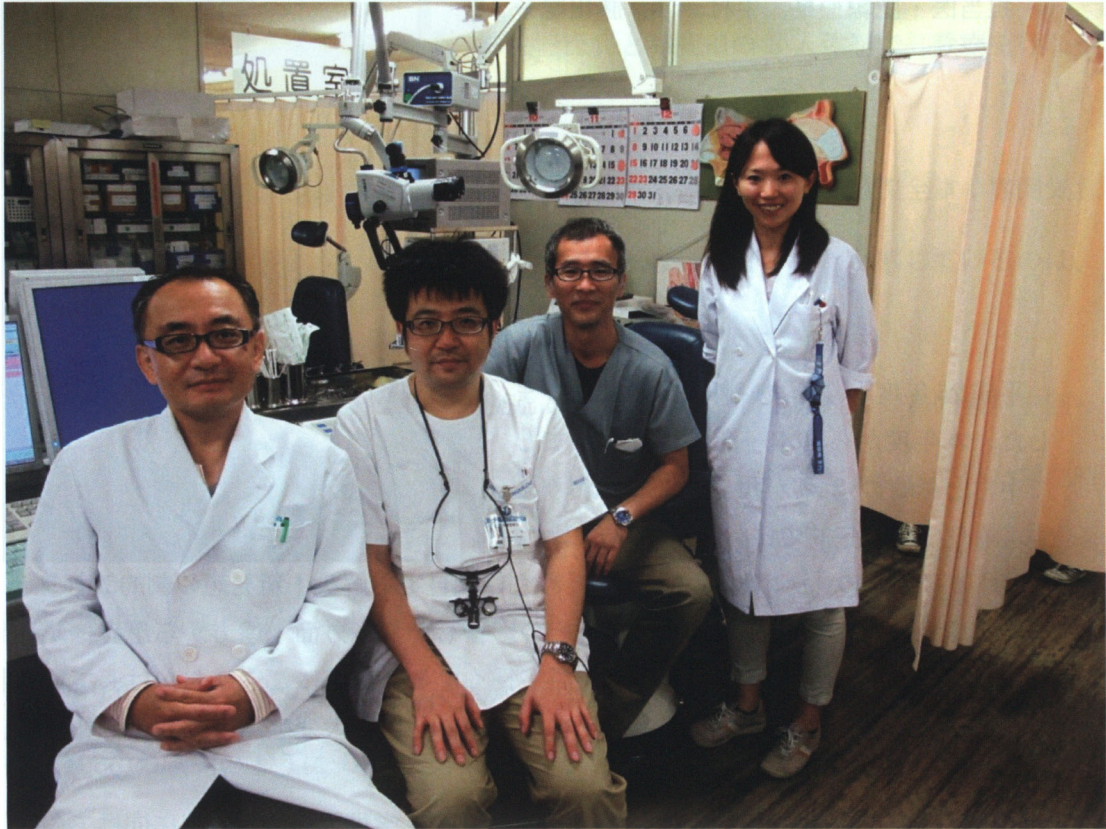
外来は水曜日の14～16時までの予定ですが、スタッフ不足に私自身の力不足も加わり、ほぼ17時過ぎまで外来診療を継続している状況で、患者様、外来スタッフには大変ご迷惑をおかけしております。私事ではありますが、昨年まで腫瘍斑に3年間（耳鼻科医2～4年目）在籍していた事もあり、副鼻腔専門外来といっても名ばかりで、鼻疾患に関する知識や経験が不足した状況での診療であり、宮本先生、宮部先生をはじめ、医局員、紹介医の先生方、患者様には大変申し訳なく思っております。この場をお借りし深くお詫び申し上げます。今後もの確な治療方針・診断を行うため、日々努力していきたいと思っております。また、手術に関しては鼻中隔矯正術、ESSを中心に勉強させて頂いております。手術症例や精査加療の必要な症例がございましたら、ご紹介の程宜しくお願い致します。

現在、アレルギー性鼻炎に対してはHD、スギ花粉に対する減感作療法、高周波凝固装置（celon）による下鼻甲介粘膜焼灼術の外来日帰り手術、粘膜下下鼻甲介骨切除術、鼻中隔矯正術、後鼻神経切断術を症例に応じて行っております。また、今後はスギ花粉に対する舌下免疫療法も行っていく予定です。鼻副鼻腔症例に関しては、年間約70症例程度ESS手術を行っております。その他、上顎洞乳頭腫に対しては、Denker法や、内視鏡下に上顎洞内側壁を切除するendoscopic medial maxillectomy(EMM)による治療、副鼻腔血瘤腫・血管腫に対しては術前塞栓術を併用した手術も行っており、良好な治療成績が得られております。鼻腔癌に対しては当院腫瘍班と合同で外鼻切開を用いた治療も施行しております。

今後も、宮本先生を中心により良いチーム医療ができるよう精進していきたいと思っております。今後共、ご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。（助教 齋藤善光）

《中耳・聴覚外来》 木曜PM

担当医：宮本康裕、中村 学、藤田（杉崎）聡子、
木下裕継（非常勤）、釧持 睦（非常勤）



平成 25 年度より、聴覚外来を担当させて頂いております杉崎と申します。

現在、聴覚外来は宮本康裕、中村学、木下裕継(非常勤)、釧持睦(非常勤)、杉崎聡子の 5 名で診療を行っております。

これまでと同様、木曜日午後(14 時～16 時)の枠を頂いています。

外来診療においては、中耳炎から ABR、真珠腫症例等幅広く診療させて頂いておりますが、個人的にはまだ分からないことも多く、上級医の先生方に相談させて頂きながら、日々勉強させて頂いております。

平成 24 年度の手術件数は、合計 26 件でした。内訳は、鼓膜チューブ留置術 8 例、鼓室形成術 9 例、鼓膜形成術 7 例、アブミ骨手術 1 例、内リンパ嚢開放術 1 例でした。

今年度は、内リンパ嚢開放術はまだありませんが、その他鼓室形成術など、様々な手術を行っております。

今後も、患者さんのために、より良い医療が行えるよう、努力してまいります。

どうぞ宜しくお願い致します。(藤田聡子)

《めまい外来》 金曜AM

担当医：肥塚 泉、中村 学、藤田聡子



平成25年度よりめまい外来担当になりました。本年度から宮本・深澤に変わりました。中村と杉崎の2名が担当となっております。曜日は金曜午前中に行なっております。

9月4日放送の「ためしてガッテン【めまいは自宅で解決！新発想の劇的改善ワザ】」に本学肥塚泉教授が出演いたしました。その影響もあり多方面・遠方から患者様が受診されております。それにより若干待ち時間が長くなり患者様にご迷惑おかけしている状況です。また、四門会会員の皆様よりも当外来へ紹介頂き大変感謝しており御礼申し上げます。

本年度は来年の「第73回めまい平衡医学会総会・学術講演会」開催に向けての準備期間であり、本学のめまい外来および研究領域でもさらに力を入れております。

外来診療におきましては通常めまい治療に加えまして、前庭代償の効率を高める独自のリハビリテーションや、めまい平衡機能の客観的評価方の検討、メニエール病に対してのゲンタマイシン鼓室内注入法（shot-gun法）、その効果判定のアンケート評価を行なっております。また、他施設になく本大学にある回転椅子（このたび新機種に変更）を用い耳石機能検査が可能であることを生かし、OVAR（off-vertical axis rotation）に独自の刺激を与え、前庭代償と体性感覚の関連性を見る臨床実験を引き続き行なっております。

良性発作性頭位めまい症に対してはEpley法、semont法、Lempert法などの一般的な耳石置換療法だけではなく、Brandt-Daroff法やROM（rolling-over maneuver）法を指導しております。基礎研究としましては7テスラMRIによるマウス内耳の観察やめまいモデルを用いた前庭代償の分子生物学的な解析を行なっております。

肥塚教授指導の下、より良い医療が提供できるように努力いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

何でも屋の岡田です。

本年4月より、田中泰彦主任医長、山口央一医長と私岡田の3人体制で、診療を行なっています。

本年末の病院機能評価の直前とあって、普段はニコニコ陽気な西部病院全体の雰囲気も何かピリピリしているような感じです（今までそんなことなかったと感じているのは、ノウテンキの岡田だけでしょうか？）。

そんな中、若い活力のみなぎっているBSLの学生さんが、西部病院の耳鼻咽喉科を回って来てくれます。何も知らずに、ズケズケと先輩の先生方に質問しまくっていた学生時代を思い出します。医局には、研修医の川口公悠樹先生（本院採用）や照屋陽子先生（西部病院採用）がローテーションしてくれていますね。

一番搾りの宣伝ではないですが、安井かずみ作詩 宮川 泰作曲の「若いって素晴らしい」（1966）の歌詞のように「夢は両手にいっぱい」の将来の耳鼻科医を多数確保できればいいな！と思う今日この頃です。

写真は手術風景、9回生の荒井毬花先生のご令嬢がBSLでいらしたときのものです。



2013年6月1日より聖マリアンナ医科大学から耳鼻咽喉科の部長として赴任致しました。専門は頭頸部腫瘍で、手術、化学療法、放射線治療を用いての集学的な治療です。当院では放射線治療ができませんが、大学と連携をとって適切な治療を致します。甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、顎下腺腫瘍、その他の頭頸部腫瘍：適切な診断と治療を行います。嚥下障害の評価や嚥下改善の手術も行います。慢性副鼻腔炎：マクロライドの少量投与後に内視鏡での副鼻腔の手術を行います。慢性中耳炎：ハイブリッドの鼓膜形成術、鼓室形成術を行います。滲出性中耳炎：小児で保存的治療に抵抗性の症例にはチュービングを行います。IgA腎症、sleep apnea syndrome などに対して扁桃摘出術を行います。即入を要する炎症性疾患、突発性難聴、顔面神経麻痺、外傷、異物には積極的に対応致します。

多摩病院耳鼻咽喉科 外来表

	午前	午後
月	◎渡辺 川上	検査 川上(予約)
火	◎川上 三上	検査 三上(予約)
水	◎渡辺、三上、及川(交代) 川上	手術
木	手術	手術
金	◎三上 渡辺	検査 渡辺、三上(予約)
土	◎渡辺、三上	

外来診察は午前中となっておりますが、ご連絡をいただければ午後でも対応致します。頭頸部の多岐にわたる手術が可能ですのでご紹介をよろしくお願い致します。

外来日は月～金の午前 8 時 30 分～11 時 30 分。1 日平均 15 人～30 人程度の受診者数です。周辺の内科開業医からのめまい患者紹介が多く、目の前のおたに耳鼻咽喉科からも、たくさんのご紹介を頂いています。H25 年 4 月から、毎週金曜日（手術日）だけは紹介状無し・予約無しの新患、再来を制限させていただいております。入院数は昨年度の平均が 1.9 人、年間の手術件数は 40 件で前年より減少しています。

当地に出向してから 4 回目の冬を迎えておりますが、H22 年度にリニューアルした当院の外観、内装、設備などは、特に色あせることもなくキレイなままです。病院構内に戸塚駅行きのバス停が出来、入ってくるバスの本数自体は少ないですが患者さんの通院も少し便利になりました。かつて渋滞のメッカだった原宿交差点は立体交差用のトンネルが出来てからしばらく経ちますが、残念なことに朝の渋滞はほぼ元通りです。

特に思い入れもなく始めた補聴器外来（木曜午後）が、周辺の団地（ドリームハイツ、大正団地など）における老年人口増多の後押しによりじわじわと成績を伸ばしています。戸塚リオン補聴器センター、マキチエ（株）横浜営業所、エイド補聴器（株）大船営業所の 3 社並列で行っている補聴器相談ですが、新患の相談は 1 ヶ月待ち、再来もそろそろ外来予約枠を使い切りそうな勢いです。

外来では新たな導入機器もなく、経年変化に伴いオーディオメーターと重心動揺計を更新した程度です。まだまだ欲しいものも沢山ありますが、いかんせん先走るものは・・・てな感じですので、地道に入院数、手術数を上げていく事が必要かと考えています。

外来看護師として 3 年一緒に仕事をした井上が 10 月いっぱい退職となり、後任は未定です。医療事務の樋口は引き続き当科担当となっております。

《横浜総合病院》

部長：向出光博

横浜総合病院はこれまで多くの OB の先生方が勤務をされ、常勤医 2 名の体制で診療を行ってまいりましたが、今年の 4 月より、私一人での常勤となりました。昨年まで非常勤で外来診療を行っていただいていた先生方も去られ、手術日である木曜日には大学からの代診が補えない日もあり、その場合は代わって私が外来を行うため、手術予定の見通しが不確定となってしまうこともありました。

ご存知のように横浜総合病院は地域中核病院として、救急体制を整え、地域に根付いた診療を行ない、この地域での非常に大きな役割を担っております。院長の目標であるハートセンターなどを備えた、大学病院にひけをとらない診療体制という高い理念には残念ながら私一人では力及ばず... の状況です。

そんな厳しい状況下、お忙しい中で月曜日の午後にはこれまで通り肥塚教授、火曜日の午前には俵道先生に外来業務をお手伝いいただき、木曜日は大学から日替りで外来診療を行って頂いております。非常にありがたく、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、他科の先生方もとてもフレンドリーで、診療科間での連携、相談なども気軽にでき、コメディカルの皆さんもベテランから若手まで、皆フットワーク軽く、業務がスムーズに進み、恵まれた環境にいることにとても感謝しております。

来年以降もマンパワーの面で厳しい状況が予想されますが、皆様のご理解、ご協力の下で成り立っております。ご迷惑をお掛け致しますが、今後とも宜しく願い申し上げます。

ご無沙汰しております

大高詳一郎

大学から遠く離れた秋田県の片田舎 角館で開業してから早いもので 25 年還暦を迎え細々と診療に従事している毎日ですが皆さんお元気にお過ごしでしょうか・・・と言っても若い同門会の先生方はほとんど知らない。開業から何年かは医局にいた当時の先生方が角館を訪ねて来てくれたり、また私も集まりに出かけてお会いする機会もありましたが最近は何んとうにご無沙汰して申し訳ありません。

人間、目から遠くなると心からも遠くなると言います。何年前でしたか、こんなこともありました。患者さんが川崎ではマリアンナにいた先生が主治医だと言っていきなりその先生に電話をして私に話してと携帯を差し出すと「おう、大高君元気でやってるか、うちに通院している患者さんだ よろしく」と受話器の向こうで聞いたような声が、でも誰だか分からない「失礼ですが 先生はどなたでしょうか」と恐る恐る尋ねると「加藤だ 加藤」の声に一瞬固まり「ははあ～失礼いたしました」携帯を持ちながら平身低頭平謝りの姿に、患者さんも哑然として見ていました。また、亡くなられてしまいましたが年に幾度も遊びに来てくれた古野隆之先生、ハタハタの卵を怪訝そうにながめ箸をつけられなかった小野泰三郎先生の思い出も記憶の彼方にいってしまいそうです。

それでも加藤先生には秋田市で開催された平衡学会に参加された折には肥塚教授、岡田先生とともに晩くまで談笑痛飲させていただきました。また、木下先生は趣味のアユ釣りのため当地の檜内川まで足をのばしてくれ思い出話を肴に楽しい酒を飲みました。遠く離れているとこのようにして同門会の先生にお会いできるのは本当に楽しみです。

秋田はそろそろ紅葉の彩りも終わり軒下まで積る雪の季節を迎えようとしております。先生方には近くにお越しの節は是非ひと声をかけていただき一献お付き合い下さいますようお願いをいたします。

肥塚教室の益々のご発展をお祈り申し上げます。

一千年の都、京都より（そうだ、京都行こう）

赤城光代

京都に来て16年が過ぎました。義父が内科を開業しており、その2階での耳鼻咽喉科スタートでした。右も左も分からず、友人もいない土地での開業は不安と心細さでいっぱいでした。でも、あわててもしかたがないと半ば投槍の気持ちで頑張ってきました。6年前、義父の跡を継いで主人が開業したのを契機に電子カルテ導入、パソコンが大の苦手な私にとって驚愕の事態に。入力するのに時間がかかり、診療終了後に夜遅くまでカルテを仕上げなければなりません。今では何とかスムーズに扱えるようになり、便利さのほうに優っている感じ。私の住んでいる京都市山科区は、京都市内ながら東山を超えた京都市の東端の盆地です。閑静な住宅地で自然がまだまだいっぱい。春には桜が咲き、有名な醍醐寺も結構近く、カエルの大合唱とおたまじゃくしの大発生、モリアオガエルの卵もみられます。夏はセミが鳴きだし、蝶、トンボ、蜂、そして大嫌いなムカデが……。自宅の庭では主（ぬし）のヘビがこんにちは！！小さなトカゲの子供がガサゴソガサゴソ。稀に山から猿やイタチが顔を出します。野鳥も多くみかけます。秋は紅葉がすばらしい。でも、冬はただただ寒い。日々慌ただしい生活の中で、このような何気ない自然に触れることが心の洗濯になっています。京都は夏蒸し暑く、冬は底冷え、住むにはなかなか厳しいところですが、都会と田舎の両方を体験でき、もちろん世界遺産の宝庫です。一度遊びにいらしてください。本場京料理も出しが効いてとても美味です。これからも微力ながら地域医療に頑張っていこうと思っています。以上、京都通信社より。

<添付写真の説明文>

我が家の夜の番人、キンタ。夜中になるとホーホーうるさい、ってことは雄ですね、たぶん。近所からは不気味な家とされているかも。



From OKINAWA

諸見里和子

8月21日 PM2:00 過ぎ…、ここ沖縄は旧盆の最終日ウークイつまりご先祖様のお送りの日。連日連夜エイサーが道をねり歩きお盆も終盤、最高潮を迎えようとしている昼下がり、一本の電話が鳴り響き…。それは岩武先生からのこの四内会の原稿依頼。とても驚きました。申し遅れました。私は旧姓深水和子、東京都出身、聖医大16期生、在学中はテニス部に所属し、岩武先生はその大先輩でもあります。卒後、竹山教授のこの耳鼻科医局に入局させて頂き、西部病院、稲城私立病院でお世話になり、2000年に主人(テニス部の先輩で整形外科)の故郷であるこの沖縄にやってきました。来沖13年、小さかった子供達も14歳、16歳、18歳となりました。私の耳鼻科外来は月曜日から金曜日までの午前外来のみ、仕事半分、主婦半分です。私にとって仕事は学生時代の延長線上で、何事も不器用な私を鍛えてくれる本当に大事な時間です。この礎を作って頂いた大学医局時代にお世話になった皆様には感謝しております。さて…ここ沖縄にはうちなあタイムというものが存在し、時間にはややルーズな県民性があります。そして、いつの間にかついこのペースにはまり、ゆんたく(=おしゃべり)外来になってしまうこともしばしばです。また、時々いただく患者さんからの手作りの野菜の差し入れは最高にうれしいです。大学を離れ、東京から離れ、開業、子育て、たくさんの事を経験してきたかのようには思います。少しは成長できているのでしょうか。日々悩むこともたくさんありますが、何事にもDO MYBESTで日々頑張っていきたいと思っております。離れている地ではありますが、これからもよろしくお願ひ致します。また、沖縄にいらした際はぜひご連絡ください。



第17回四門会総会を開催して

四門会会長 岩武博也

四門会の皆様にはお変わりなく益々ご清栄にてご活躍のこととお慶び申し上げます。前回の総会において四門会会長としてご挨拶をさせていただき早いもので1年が経過いたしました。皆様のご協力により微力ではありますがこの四門会の発展にご協力出来ればと思っております。

平成25年12月1日に新宿の京王プラザホテルにおいて第17回四門会総会を開催いたしました。昨年に引き続き多くの会員の先生方にご参加下さいまして美味しいお食事を食べるのも忘れ話に夢中になっておりましたらあっという間に2時間が過ぎてしまいました。秋田から大高詳一郎先生が久しぶりに参加して下さいまして研修医時代の懐かしい思い出話をする事ができ、その変わらぬダンディなお姿に驚かされました。また、今年は新入会員が3名加わり自己紹介をしていただきましたが皆さん若々しくこれからの教室を盛り上げてくれるだろうと確信いたしました。

まだまだ理想とする同門会の形には至ってないと思われませんが、まずは少しでも多くの会員の先生方に総会に参加していただいてご意見を賜りたいと思っております。総会の会場を大学キャンパスから都内のホテルに変えただけでは参加者が限られてしまうので、これからの課題といたしましては総会の時期、開催の場所や時間、講演会などの企画も今後の検討課題と考えております。同門会のあり方についても皆様の色々なご意見があるだろうと思いますが、まずは会員の先生方から愛され、親しまれる親睦団体として活動して行ければと考えております。どうか皆様、次回の総会には是非皆様お誘い合わせの上ご参加して下さいますようよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員の皆様の今後一層のご健勝とご活躍を心からお祈り申し上げますと同時に四門会のさらなる発展に向けてご支援並びにご協力をお願い申し上げます。

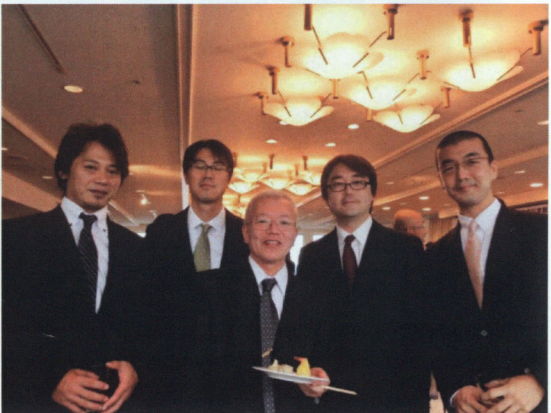


聖マリアンナ医科大学 耳鼻咽喉科学教室 第16回四門会総会 2012年12月2日 京王プラザホテル



聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 第17回四門会総会 2013年12月1日 京王プラザホテル

【第16回】



【第17回】



第 14 回 四門会ゴルフコンペ

信清重典

来てます、ゴルフブーム。

調べてみますと現在は第四次ゴルフブームだそうです。昭和 32 年、第 5 回カナダカップが日本で開催されたとき、中村寅吉プロと小野光一プロが、個人・団体戦で優勝したことをきっかけに、ゴルフが大人気となりました。その後、昭和 50 年代には青木功プロ、尾崎将司プロ、中島常幸プロが大活躍し、第 2 次ゴルフブームが到来。1996 年、アメリカでタイガー・ウッズが華々しいプロ・デビューを果たし、世界中でゴルフ人気が高まりました。そして、日本では宮里藍プロや上田桃子プロといった若手女子プロが台頭。最近では常に注目を集める石川遼プロや史上初のルーキーイヤーでの賞金王になった松山英樹プロの活躍などで、ゴルフの人気、注目度はますます高まっています。

四門会の OB 内でも今まさに、大ゴルフブームの真っただ中です。(私が超ハマっているのそう思っているのですが・・・)

来る平成 25 年 9 月 29 日、第 14 回四門会ゴルフコンペが開催されました。台風明けでまずまずの晴天。スタート 1 時間前にはほとんどの方が集合してやる気十分といった感じです。今年のコースは、去年と同じ富士フィルムシニアチャンピオンシップ (プロのシニアトーナメント) が行われるザカントリークラブジャパンという名門コース。相手にとって不足はありません。

今年は皆様レベルが高く、アンダー (NET) で回った方が 4 名もいました。私は加藤先生と一緒にラウンドさせていただいたのですが、加藤先生の正確なストレートボール、アプローチ、パターの絶妙なタッチには脱帽です。いつもいい勉強させていただいております。加藤先生は大活躍で、優勝こそ逃したものの 3 位の好成績でした。

優勝は小松崎靖先生。かなりゴルフにハマっているようで満を持しての優勝。圧勝です。ベストグロス鈴木正彦先生。数々の猛者を抑えての栄誉。素晴らしいの一言です。

天気に恵まれ、豪華賞品もあり、最高の一日となりました。

ここ最近、大学医局の方々や若手の参加が非常に少ない状況です。今年の参加者では私の代 (宮本、桑原、信清) が一番のヤングでした。(既に 40 オーバーですが・・・) OB と現役医局員との交流にはもってこいの場ですので是非是非ご参加してほしいものです。来年の開催日は平成 26 年 10 月 5 日、同じくザカントリークラブジャパンに決定しております。多数のご参加を心よりお待ちしております。



朝の集合写真



初優勝を決めた
小松崎 靖先生

プレゼンター
加藤 功先生

ベストグロを獲得した
鈴木 正彦先生

プレゼンター
岩武 博也先生



退職・退局にあたり

堤 康一郎

本年4月・・・・・・今年度は（昭和58年・1983年に聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室に）入局して30年目の節目だなあ・・・・・・とっていた矢先に・・・・父が急逝・他界し、結論として継承開業のため5月31日に退職・退局となりました。既に新年度（大学では新学期）突入しており、私のわがままを聞いていただいた、肥塚先生をはじめとする現医局のメンバーの皆様方、また、最終職場となった川崎市立多摩病院の関係各位の皆様方には大変ご迷惑をおかけし、本当に申し訳なく思っております。

今回この原稿を書くにあたり、ここ数日はこれまでの勤務医としての生活を振り返っております。この30年間、いろんな場面が思い出されますが、今思うと1つ1つが懐かしい大切な思い出となっています。中でも、最終職場となった多摩病院での出来事は病院オープンから関わったためとても思い出深いです。また、これまで様々な方々に自分の様々な窮地を助けていただいたことや、大学院の先生方と学位論文作成に苦労したこと等も現在ではとても懐かしいです。さらに、たくさんの先生方の優しさや仕事に対する厳しい姿勢に接することができたこと、多岐にわたるアドバイス、しばしば叱られたこと・・・・・・等が本当に貴重なもので、僕の聖マ人生を支えてくれたと感謝しております。皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。

退職のごあいさつ

俵道 淳

今年の3月に17年間お世話になった医局を退職させていただきました。

在職中は公私にわたり暖かいご指導いただき有難うございました。

現在は来年3月からの大和市高座渋谷での開業を目指し準備中です。私が入局した平成8年は入局者が私含め8人いて耳鼻科大人気の年でした。同期が多いことはよいことで初医局旅行、みんなで踊った黒ブリーフ一枚での一糸乱れぬダンス・寸劇は多くの同期がいなければ成し得ませんでしたし、小林君の全身ヌルヌルの油谷さん役をご記憶の方もいらっしゃると思われませんが見事な演技でした。人に言えない仕事のはずかしい失敗や悩みは同じ立場の同期にしか相談しづらいことでして相談相手が多かったのにも救われました。他の同期がいろんなオペをどんどんやらせてもらってるなんて話を聞くと焦りもしましたがいい刺激にもなりました。

私たちの代からスーパーローテートがスタートし、1年の耳鼻科研修後やっとまともに額対鏡が使えるようになったと思ったら2年目からはローテートに出発、その後はそのまま生化学教室で2年間研究生活に突入したため耳鼻科とは3年間の長い別れとなってしまいました。その間、耳鼻科診療は夜間急しかしておらず5年目の耳鼻科復帰時点でほぼ研修医状態で、東横病院ではいろんな失敗をして越智先生、小松崎先生、杉浦先生にはいろいろとご迷惑をおかけしました。やっと耳鼻科臨床スタートできたと思ったのもつかの間、翌年からは麻生病院での一人常勤決定、勘弁してくださいとの願いも叶わず、事故だけは起こさないようにと恐る恐るの毎日でした。その後は横総、横須賀、秦野をめぐり最後は西部病院で岡田先生にお世話になり現在に至ります。全てが必要な経験だったとポジティブに考え第2ステージで頑張りたいと思います。

退職のごあいさつ

齋藤 晋

この度、長年お世話になりました聖マリアンナ医科大学病院耳鼻咽喉科学教室を卒業することになりました。（卒業ではなく中退ですか？）耳鼻咽喉科に入局した当初、学生時代からの友人である高津先生、梅原先生と臨床、研究に切磋琢磨したことをつい最近のこのようになつかしく感じております。おもえば入局した当時は同期生 8 人がいましたが、最後に残ったのは出来の悪い自分と春○井先生の二人になってしまい、肥塚教授と医局に大変申し訳なくおもっております。春○井先生がんばってください。

話は変わりますが、4月から府中のほうで耳鼻科勤務をしておりますが、さっそく夕方入院が必要そうな患者さんが来院されました。近隣の病院では夜間に耳鼻科の対応をしてくれるところがなく、受け入れを断られつづけて、最後の望みをかけてマリアンナの耳鼻科へ電話したところ当直の阿久津 Dr が「ススムさんおひさしぶりです、元気ですか」と気持ちよく患者さんを受け入れてくださいました。感謝しております。自分が大学病院にいたときには、面倒くさいとそっけない態度で対応をしていたと、とても恥ずかしく感じております。大学病院は他では対応が困難な難しい症例ばかりがわんさかと集まってきます、また夜間救急でははっきりなしに難しい患者さんの対応をせまられます。大学病院をはなれてから当時の大変さが身にしみるようで今から大学病院への勤務は到底つとまらないように感じます。医局員の先生方は本当に大変だと思いますが、私も出来る限り大学には迷惑をかけないようにしますのでこれからもよろしく願いいたします。

聖マリアンナ医科大学は嫌いになっても、マリアンナの耳鼻科医局は嫌いにならない
てください！ b y 前田敦子

第 16 回四門会理事会議事録

1. 会員数内訳（平成 24 年 12 月 1 日現在）
 総会員数：124 名
 うち現医局員：23 名
 小野泰三郎先生が、平成 24 年 9 月 20 日、脳幹部出血により永眠されました。また、小野泰三郎先生は物故会員となることとなりました。
2. 会員異動
 高津 光晴 平成 24 年 2 月 27 日 退職
 及川 貴生 平成 24 年 3 月 31 日 退職
 （たま耳鼻咽喉科）
3. 新入会員
 阿久津 征利 平成 24 年 4 月 1 日 入職
4. 退会会員
 漆畑 保 平成 23 年 12 月 2 日 退会
 菊池 仁 平成 23 年 12 月 2 日 退会
 吉田 篤正 平成 23 年 12 月 2 日 退会
5. 会計報告（平成 23 年 10 月～平成 24 年 9 月）
 右記参照
6. 平成 24 年度役員人事
 会 長 岩武博也
 副会長 渡来潤次、服部康介
 名誉理事 竹山 勇、加藤 功、大橋 徹
 推薦理事 肥塚 泉
 理事 岩澤 寛、芋川英紀、上杉恵介、
 越智健太郎、勝見直樹、木下裕継、
 黒田寿史、剣持 睦、小松崎 靖、
 佐久間 惇、佐々木祐幸、佐藤成樹、
 新谷敏晴、関 良武、高橋 姿、
 堤康一郎、中島博昭、西野裕仁、南
 定、宮部 聡、渡辺昭司 （50 音順）
 監事 飯田 順、岡田智幸
 事務局長 宮本康裕
7. 四門会賞
 該当なし
8. 平成 25 年度四門会日時
 平成 25 年 12 月 1 日（日）
9. 第 73 回日本めまい平衡医学会について

- 肥塚 泉教授が会長に決定いたしました。
- 日時：平成 26 年 11 月 5 日（水）～7 日（金）
 場所：パシフィコ横浜
10. その他
 - ① 平成 25 年 4 月より事務局長が中村学先生に決定し、平成 25 年 10 月より宮本康裕先生が理事に決定しました。
 - ② 第 73 回日本めまい平衡医学会開催にあたり、同門会で支援することが決定しました。岩武博也会長により数名の委員を選出することが決定しました。
 - ③ 小松崎靖理事より同門会運営費、会費等の検討が必要ではないかとの意見がありました。
 - ④ 四門会総会の開催日について現在の日曜日ではなく、土曜日に変更できないかとの意見があり今後の検討課題としました。
 - ⑤ 来年度の四門会理事会、総会は平成 25 年 12 月 1 日（日）となりました。

平成23年10月～平成24年9月

平成22年度繰越金	¥2,843,499	
	収入	支出
平成23年度会費	¥1,095,000	
四門会賞		¥50,000
四門会誌第19号印刷費		¥175,914
秋山・北山日当		¥20,000
通信運搬費		¥20,444
慶弔費		¥44,387
新潟大学寄付金		¥1,000,000
振込み手数料		¥1,050
利息	¥363	
	¥1,095,363	¥1,311,695
次年度への繰越金	2,627,167	

監 査 報 告

平成24年9月30日

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室
 同門会（四門会）
 会長 岩武 博也 殿

飯田 順

監事 岡田 智幸

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室 同門会（四門会）平成23年度収支決算に関する証拠書類を慎重に審査しましたところ適正であることを認めます。また、会務は適切に施行されていることを認めます。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会（四門会）と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の承認を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役員

第8条（役員）

本会は会長1名、副会長2名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条（役員の任期）

- (1) 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条（役員の職務、権限）

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、会則に定めるものの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条（役員を選任）

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授を推薦理事とする。
また、教授退任後は名誉理事とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会議

第12条（総会）

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望がある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。

- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条 (事務局)

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条 (本会の経費)

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる。

第16条 (会計年度)

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条 (会則の改正)

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条 (その他)

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条 (本会則の発効)

本会則は平成9年12月1日から発効する。

本会則は平成12年12月3日から発効する。

本会則は平成16年11月28日から発効する。

本会則は平成18年12月3日から発効する。

本会則は平成24年12月2日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条 (会費)

(1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。

- ・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額 5,000 円
- ・その他の会員は年額 10,000 円

(2) 70 歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第 3 条 (役員を選出)

- (1) 役員の定数は、理事 15 名以上、監事 2 名とする
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授は会長を兼任できない。
- (5) 会長は聖マリアンナ医科大学卒業生に限る。

第 4 条 (慶弔)

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第 5 条 (本細則の発効)

本細則は平成 9 年 12 月 1 日から発効する。

本細則は平成 11 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 12 年 12 月 3 日から発効する。

本細則は平成 16 年 11 月 28 日から発効する。

本細則は平成 17 年 12 月 4 日から発効する。

本細則は平成 22 年 12 月 5 日から発効する。

《編集後記》

今回、四門会誌の発行が遅れましたこと、この場をもちましてお詫び申し上げます。

OB 通信に御寄稿頂きました OB、OG の先生方にも厚く御礼申し上げます。

不慣れな故、見難い点多々あるかとは思いますがお許してください。

これからも、医局の発展のため四門会の先生方には、益々のご協力、また御指導・御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

皆様の健康と益々のご発展を祈念しております。 (宮本 康裕)

